

地域おこし協力隊活動実績報告書

隊員氏名： 谷川 英愛

- ・活動期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
(委嘱日：令和3年9月1日)

1. 隊員の活動テーマ

活動テーマ	定住促進 ※共通
より具体的なミッション	① デジタルデバイド（情報格差）の解消 ITスキルを活用し、インターネットなどの情報通信技術を使える人と使えない人の間に生じる情報格差を解消する取組を行う ② 情報発信のメディアづくり ウェブなどを用いて田舎暮らしの魅力や地域情報を国内外に発信する

2. 活動の検証

(1) 定住促進への直接的効果

移住等の相談を受けた件数	0件（人）
移住希望者に現地案内などの活動を行った件数	0件（人）
うち移住につながった（つながる可能性のある）人数	0件（人）
具体的な相談の内容	なし

今後の展開や展望または反省点など	この一年定住促進に向けての活動が不十分でした。今後は積極的に定住促進をアピールするためにSNSの広報活動や知り合いへの宣伝等を積極的に行おうと思います。
------------------	--

(2) 具体的な活動について

活動を展開した地域数と名称	地 域 数： 7地域 地域の名称：(美山町大野・宮島・鶴ヶ岡、日吉町上胡麻、八木町西田、園部町摩気・城南町)
移住者受け入れや地域振興への意識が高まったと思われる地域数と名称	地 域 数： 7地域 地域の名称：(美山町大野・宮島・鶴ヶ岡、日吉町上胡麻、八木町西田、園部町摩気・城南町)
今後継続的なアプローチにより意識が高まる見込みの地域数と名称	地 域 数： 7地域 地域の名称：(美山町大野・宮島・鶴ヶ岡、日吉町上胡麻、八木町西田、園部町摩気・城南町)

活動内容	現在の課題	期待する成果・展望
出張スマホ教室開催	難しくて申請が出来ない、災害時や緊急時にスマホで出来る命を守る便利な機能を知らない。	生活の質&利便性向上、緊急時の命を守る便利な機能がある事を啓蒙していく。
IT個別サポート	PC操作、スマホ操作を教えてほしいという要望に対して「相談会」を開催。時間や人数制限が課題。	生活力の向上、こういった活動を地道に行っていく事で「地域おこし協力隊」の活動をより多くの人に知ってもらおう。
IT講師(スマホ教室)依頼	卒業後のスケジューリング、価格設定等が今後の課題。	南丹市でもIT業務が成立する事を外部に積極的にアピールする

3. 活動表

活動年	実績・効果、目標
1年目	<p>目標「地域と地域おこし協力隊制度を理解し、多くの人と知り合う」</p> <p>●活動内容実績</p> <p>美山町（宮島振興会）での出張スマホ教室、地域おこし協力隊セミナーで知り合った全国地域おこし協力隊員とグループを作成し定期的な情報交換を開始、在住している日吉町での訪問サポート対応、婦人会等の依頼でスマホ相談会を定期的実施、自治会や振興会に依頼されたマイナポイントの使い方セミナーを実施、HP やスマホ教室口コミ経由でのスマホトラブル相談に対応（メール&電話）</p>
2年目	<p>目標「重点的な IT サポート活動」</p> <p>・活動内容</p> <p>地域おこし協力隊アカウントの整理を行い、国内外に田舎暮らしの魅力や地域情報を発信する事、ITサポートの窓口をオンラインで作成しニーズに合ったサポート&情報公開を行う</p> <p>●活動内容実績</p> <p>南丹市役所人権政策課経由でのスマホ教室、八木でのスマホ教室、園部町摩気地区でのスマホ教室いずれも依頼があり開催</p> <p>南丹市情報課経由でのスマホ教室講師用セミナーに参加</p> <p>1年目と同じ訪問サポート対応</p> <p>HP 経由・スマホ教室参加者経由での各種 IT サポート対応</p> <p>日吉町 & 美山町での定期的なスマホ相談会開催</p> <p>社会福祉協議会経由での PC サポートを数回実施</p>
3年目	<p>目標「卒業後の活動について本格的に準備する」</p> <p>●活動内容実績（2月まで）</p> <p>八木老人クラブ、園部町摩気地区、八木西田地区でのスマホ教室を開催</p> <p>HP、電話&メール経由での過去スマホ教室参加者様、主催者様、団体様等からの各種 IT サポート対応</p> <p>日吉町でのイベントに参加し、スマホ相談会の実施</p> <p>スマホ教室、IT サポートについて需要がある事は確信しましたので、あとは卒業後の住居、活動方法等卒業後の活動について本格的に準備していきたいと思えます。また震災等の危機的状況化においてのスマホ活用方法等を一人暮らしの高齢者の方々に一人でも多く伝えていく活動をしていきたいと思えます。</p>
任期後に得たい成果・変化（自分自身・地域・関係者）	<ul style="list-style-type: none"> ・南丹市でテレワークやITスキルを活用した事業が可能だとアピールすること（自身がモデルケースとなり発信）で技術者の移住や地域の雇用に繋がりたい ・一人暮らしの高齢者が多い南丹市で、緊急時のスマホ活用方法等を伝えていく活動、その活動を集落の若者やキーマンに指導し普及することで命を守る活動の大事さを伝えていきたい